

令和6年度第1回瀬戸市図書館協議会
議事録

日時：令和6年7月9日（火）午後3時から4時30分まで

場所：瀬戸市立図書館 1階 集会室

出席者：14名

<会長> 中井 孝幸

<委員> 加藤 英憲（副会長）、石川 良文、加藤 絹子、加藤 由夏、佐合 浩史
野田 敬資、村木 さやか

<事務局> 教育長 加藤 正彦、教育部長 駒田 一幸、図書館長 吉村 きみ、図書館専門員
幸村 弘美、図書館主事 矢野 和幸

<オブザーバー> 株式会社リブネット 八尾 恵

欠席者：柴田 優子、米井 勝一郎

傍聴者：0名

議事内容：

1 開会

事務局(専門員)進行

- ・ 会議成立の報告
- ・ 委員へ議事内容記録のための録音の説明
- ・ 閉会予定時刻の説明

2 あいさつ

○事務局(教育長)

現在の瀬戸市立図書館本館は、昭和45年（1970年）に建設された。今年は54年目ということになり、長年の懸案であったリニューアルをいよいよ始めることになる。次第の第4項に記載のある図書館リニューアルについて「新しい図書館のあり方」を様々なご意見いただきながら検討してきた。場所、地域にとって使いやすいかなど色々なご意見を賜った。長寿命化の改修工事により、市民にとって親しみやすい、使いやすい、そして、新しい時代に合った図書館としてリニューアルをしていく。

図書館がより市民にとって使いやすい図書館となるために皆様の立場から色々なご意見を賜ればありがたい。

○事務局(専門員)

- ・ 資料確認

3 委員紹介

○事務局(専門員)

配布資料1に基づいて紹介。

瀬戸市図書館協議会条例第3条の協議会は委員10人以内で組織するという規定に基づき、10人の委員を選任している。野田委員、加藤英憲委員、米井委員が新たに就任。加藤由夏委員、村木委員は市民公募により新たに就任。

4 議事

○事務局(専門員)

議事に移る。会議の議長は本来、会長が務めることとなっているが、会長が選任されていないため、選任されるまでの間、代わりに務める。

(1) 会長、副会長の選任について

○事務局(専門員)

会長および副会長については、瀬戸市図書館協議会条例第7条に委員の互選により選出することとなっている。会長および副会長に立候補、または推薦はあるか。

○委員

会長には中井孝幸委員を推薦する。

○事務局(専門員)

賛同いただける委員は拍手をお願いします。中井委員を会長として選任することを承認いただけたとする。副会長について立候補、または推薦はあるか。

○委員

副会長には加藤英憲委員を推薦する。

○事務局(専門員)

賛同いただける委員は拍手をお願いします。加藤英憲委員を会長として選任することを承認いただけたとする。今後の議事については、瀬戸市図書館協議会条例第8条第1項の規定に基づき中井会長を議長として進行をお願いします。

○会長

日本図書館協会の施設委員会の委員に就任しており、全国の新しい図書館がどのような形で建築されているかという統計作成のためアンケートを集計している。近年5年間の平均をとると、新しくできる図書館の8割が複合建築で計画されており、複合施設が非常に増えてきている。

新築とは別に、瀬戸市立図書館がこれからまさに行うリニューアルの事例も全国で大変増えてきている。全国色々な動きがあるため、リニューアルの事例を聞けば、なるべく見に行こうと思っている。特に瀬戸市がリノベーションの形にするため、そういった事例をもまた見たいと思っている。機会があれば、そのようなご紹介も含めてさせていただきたいと思う。今後ともよろしくをお願いします。

(2) 令和5年度利用状況等について

事務局(専門員)から資料3、4に基づき説明。

○会長

事務局からの説明に対しご意見・ご質問等はあるか。

○委員

先ほどの説明で、光陵中学校地域図書館の利用者が少し減ってしまったが、開館時間を変更したところ利用者が増加したという話があった。また、前回の会議では、陶原小学校の校長から陶原小学校、水無瀬中学校には地域図書館が無いという話があった。児童やその父母にとって、近隣であっても学区外にある地域図書館を利用することはハードルが高いと思うが、地域図書館は、学区などを考えた上で設置しているのか。

○事務局（図書館長）

「地域図書館づくり推進計画」が平成17年に作成されている。計画に基づいて整備し、7館の地域図書館を順調に開設することができた。この計画の中に、中学校区に一つの地域図書館を設置していこうという目標がある。ご指摘のあった陶原小学校は水無瀬中学校区になるが、水無瀬中学校区に現在設置ができていない。設置に向けて進めているところである。

○委員

光陵中学校地域図書館は、3階にあり行きにくい。今ある地域図書館のことも少し検討した方がよい。

○委員

3階まで向かうのは高齢の方と乳幼児を連れた子育て世代には不便になると感じている。3階に上がる階段が非常にわかりにくいことも気になっている。光陵中学校は3階図書館が外階段で上がっていくところにある。昨年度から2階に学校にちょっと足が向かないような子たちが入る「ここほっとルーム」という施設ができた。その子たちからすると、みんなの前を歩いてそこに上がるというのは非常に行きづらい部分もある。図書館もわかりやすい道を作ってあげたいという気持ちもあるが、「ここほっとルーム」のことを考えるとやっぱりできるだけ目立たないようにという部分もある。ただ学校としても、地域の方に活用していただける部分も協力したいと思い、例えば用務員さんがお花を植えて、通路を綺麗にするなど、いろんな工夫をしている。入り口はもう一つ図書館のすぐ横にもあるがそこは普段は金網で鍵をしており、また別の場所から歩いていくという入り方であるため、その部分は課題と感じている。

○会長

委員の質問にもあった光陵中学校図書館の開館時間が長くなったとはどういうことか。

○事務局（図書館長）

地域図書館としての開館時間は全地区共通で、土日祝日10時からというところは、変わらず光陵中学校地域図書館も開館した。地域図書館のこの統計に出ている数字は、学校図書館として運営しているところの数字も一緒に出てきてしまっている。少しわかりにくい数字ではあるが、学校図書館として少し開館時間が少なかったため、学校図書館として、機能していなかった時期があったが、今は開館しており、生徒たちがよく利用してくれているため、順調に数字が伸びている。

○会長

地域図書館について質問がいくつかあった。瀬戸市が取り組んでいる土日休日だけ小中学校の学校図書館を地域図書館として開放するというのは、全国でも珍しい。1中学校区に1館と

ということで、7館できたということは、8中学校区であったか。

○事務局（図書館長）

7中学校区になる。水野中学校区に、地域図書館が2館できている。これは、学校の空きスペースの関係と学校の教室を改修するときに設置したためである。今できていない水無瀬中学校区に設置できるようにしていきたい。

○会長

セキュリティ面から校内の端にある学校図書館を地域図書館として指定しているが、にじの丘ライブラリーのように、校内の中央に設置という例外もある。もう少し行きやすく、使いやすという視点で今後新たな地域図書館を設置する際には、考えていただきたい。

情報ライブラリーで学生の利用者数が増えたという話だが、どのくらい椅子を増やしたか。

○事務局（図書館長）

4座席である。これにより勉強できるスペースが増えた。

○会長

市役所は自習室として使えないのか。

○事務局（教育部長）

市役所は、土日閉まっている。情報ライブラリーがあるパーティセトという建物自体に学生が集まっている。

○会長

学生を将来の利用者として捉え、本の魅力を示すなど戦略として今後うまくやっていっていただければと思う。

総貸出冊数約59万3000冊を瀬戸市人口約12万6000人で割ると、約4.7冊となる。日本の平均が5冊と言われている。良い図書館と言われて、貸し出しが多い図書館が人口1人当たり10冊であるため、もうちょっと頑張りたいと思う。本館だけでなく、地域全体の活動で現状維持するか、5冊とか5.5冊とかに少し伸ばしていただけるといいと思う。

(3) 令和6年度事業計画等について

○事務局（図書館長）

資料5に沿って説明・報告。

○会長

事務局からの説明に対しご意見・ご質問等はあるか。なければ、資料に記載のないイベントが増えたりする可能性もあるか。

○事務局（図書館長）

各団体から連携でイベントをやりたいとお声掛けいただいている。職員の人数にも限りがあるが、できる限りやっていきたい。

○会長

他に意見や質問がないようなので次の議事に進む。進行を事務局に戻す。

(4) 図書館リニューアルについて

○事務局（図書館長）

パワーポイント資料及び令和6年7月2日付け『中日新聞』朝刊なごや東版の記事を基に説明。

○会長

事務局からの説明に対しご意見・ご質問等はあるか。

○委員

説明のあったリニューアルの内容は決定事項か。

○事務局(図書館長)

現段階では、設計中のため、最終決定はまだされていない。

○委員

集会室はどうなるのか。

○事務局(図書館長)

建物はそのまま、アクティブラーニングの部屋として役割を持たせる。机をアクティブラーニング用として新しくし、調子の悪いエアコンを更新させたい。

○委員

瀬戸市の市立図書館が、近隣の市町の図書館と比べて一番大きな違いは、森の中にあることだと思う。いろいろとワクワクするような仕掛けをしていくことがわかった。外の自然の森とうまく融合して、ちょっとしたところにベンチや何かで、読書ができれば、すごく素敵だと思った。感想として述べる。

○事務局(図書館長)

芝生広場のところにキッチンカーを呼ぶようにした。少しずつであるが、テラスでも読書をし、気候のいいときには藤棚の下で勉強している利用者もいる。延床面積が約1500平米しかないため、外の森も利用しながら使っていきたいと思っている。

○委員

図書館の中に飲食スペースがあるとよい。

○事務局(図書館長)

リニューアル後に、市民の皆さんとルール作りをしていきたい。規則でうたっていないが、図書館は飲食してはいけない場所という固定観念があるが、ルール作りの中で地域の皆さんとどういう場所にするのかを今後決めていきたい。

○委員

70年ちょっと住んでいるが、図書館に来たのが今回初めて。豊田市寄りに住んでいるため、ここまでくるというのが、結構難しかったと思う。森の中で食事をしながら本を読んでいるのは、よいと思った。

○委員

図書館の中だけでなく、アクセス面も考えていただけるといい。

○事務局(図書館長)

アクセス数の問題については、非常に課題があると思っている。残念なことに森の中にあるため、とても素敵な壁画のある建物だが下から見えない。少しでも良くなるよう案内板等も工

夫し、変えていかなければならないと思っている。

○委員

フリーWi-Fiがあると良い。

○事務局(図書館長)

フリーWi-Fiについては、スポットが何ヶ所か置いてある。主に自習で利用されることが多い2階の会議室では、そのスポットからWi-Fiがうまく接続できない状況である。リニューアルを機に、スポットの位置をよく検討し、必要なところでWi-Fiが繋がるように整備をしていきたい。

○委員

平面図だけではちょっとイメージが湧かない。図書館に入って玄関の右側に図書館の掲示板があり、リニューアルプランが掲示されているが、よく利用されている方にも伝わっていないと思う。利用者の関心事は、本館休館中に「どこで本を借りることができるか」である。掲示板に意見を記入できる場所があるとよい。

○事務局(図書館長)

休館中でも地域図書館と情報ライブラリーは引き続き使うことができ、電子図書館サービスの方も今と変わらず利用できることを皆さんに届くようにしっかりと宣伝していきたいと思っている。

○会長

国立国会図書館の「カレントアウェアネスポータル」に図書館の音に関する記事を執筆した。男性などの周波数の低い声は床で吸音できるが、子どもや女性などの高い声は天井でないと吸音できない。メインのところはテーマ配架により一般書と児童書が混配され、子供と大人が一緒に過ごすこととなる。高く見せるために玄関の天井を剥がすことが少し心配である。設計のチームでも、ぜひ検討していただきたい。

また、テーマ別配架をやりすぎると、実は逆に探しにくいということがある。探しやすくなるように、何か工夫をしてほしい。札幌市情報館と岡山県瀬戸内図書館を参考にしてほしい。ブックエンドはスチールの方が良い。

○委員

市立図書館は今回の改修で一旦落ち着くが、瀬戸市は図書館と地域図書館のネットワークで構成されているため、改めて地域図書館のあり方と再編について全体像を考えた方がいい。

○会長

今後継続して検討する。図書館と学校が結びついており、ネットワーク型の特徴のあるシステムだと思う。図書館サービスだけでなく市民サービス等も生涯学習およびコミュニティの拠点として、ネットワーク型の図書館を活用してほしい。

他、意見や質問ないか。なければ、議事終了したため、進行を事務局に戻す。

5 その他

会長から引き継ぎ、事務局が進行

○事務局（図書館館長）

資料6に沿って説明・報告。

○委員

昨年、図書館友の会が主催の田原市中央図書館の見学会を行った。

6 閉会

次回の図書館協議会は2月頃の開催予定。